

みんなの笑顔が見える 社会を取り戻そう



いつまでマスク？ なぜ顔を隠し続けるの？

素顔ジャパンは、みんなの笑顔が見たい、素顔の日本を取り戻したい、その願いのもと有志が集まり、スタートしたプロジェクトです。思いを同じくするみなさまの参加・協力を歓迎いたします。

1. コロナ前の素顔が当たり前の生活に

町で出会った人と「おはよう」と挨拶をする。そのとき私たちは、決して音声だけで意思疎通をしているわけではありません。互いの表情を見て、口元の微笑みに安心を感じたり、あるいは頬のこわばりから悩みがあるのではないかと察したりしながら、社会生活を営んできました。

お互いの顔が見えることは、人と人とのコミュニケーションの基本です。私たちの第一の願いは、コロナ前の素顔が当たり前の社会を取り戻すことです。



2. マスクは任意？ 本当に個人の自由になっている？

外を歩けば、たしかにマスクをしている人と、外していない人、半分ずつくらいです。しかし店舗や公共施設の多くで、スタッフは**全員マスクという場面**があります。学校でもクラスのほとんどの子がマスク姿で顔が見えない、というケースが珍しくありません。

みなさんの職場や、お子さんが通う学校では、いかがですか？ **建前だけの自由**になっていませんか？ ぜひみなさんで考えてほしいと私たちは思います。



3. 体育や運動会でも…、 危険なマスクをやめさせよう

マスクの問題が**特に深刻なのは子供たち**です。小学校の高学年から中学生や高校生の多くが、マスクを外せずにいます。登下校中や授業中はもちろんのこと、体育や運動会、あるいは部活動などの激しい運動を伴う際も、マスク着用のままという子が少なくありません。

ただ夏の炎天下、熱中症のリスクがあるときでさえ、マスク姿のまま運動をさせるというのは、もはや**虐待であり体罰である**と言っても過言ではないでしょう。

「外すことを強制できない」と言い訳をせず、危険なマスクは即時やめさせる。当たり前の対応を強く望みます。



4. 顔を見せるのが恥ずかしい子、 継続的に寄り添った対応を

子供たちにとってのマスクの問題が簡単でないのは、もはや感染対策のためではなく、**顔を隠すためのツール**となり、外して**顔を見せるのが恥ずかしいという精神面の影響**が大きくなってしまったことです。

先生や保護者が外すように呼び掛けても、かたくなに外せなくなってしまった子が一定数います。成長期の心理に及ぼした影響はあまりに大きく、極めて深刻な現実です。

四六時中マスクが手放せなくなってしまう子については、専門的なカウンセリングが必要になるでしょう。継続的に寄り添った解決策を考えていくことが必要です。



5. 笑顔で会食！ 脱マスクの一步は食事を楽しむところから

顔を見せるのが恥ずかしい。大人にもそう思っている方がいるかもしれません。私たちが提案したいのは、気の置けない友人や仲間たちとの会食です。食べて飲んで、笑顔で会話を楽しむ。やっぱり相手の表情が見えるっていいな、そう感じてもらえたら、**素顔生活に戻る**ことへの抵抗も薄れていくのではないのでしょうか。

残念ながら一部の学校で「**黙食**」を続けているところがあるそうです。会話を楽しみながら食事をする、子供たちの権利を損なわないでほしいと願います。



6. 店員、職員、施設スタッフ、明るい笑顔で接してほしい

スーパーやデパート、銀行や役所など、あらゆる場所で「顔の見えない接客」が続いています。マスクは人の表情の半分以上を隠し、冷たい印象を与えます。

一方でテレビや雑誌の広告、ホームページなどを見ると、店舗のスタッフも事務所の職員も、みな笑顔を振りまいています。素顔のほうが明るくてイメージがよいと、本当はみんな分かっているのではないのでしょうか？ いつまで顔を隠し続けているのか、それが世の中のためになるのか。**リーダーの決断**が待たれます。



7. 顔が見えないのは不安…、防犯の観点からも素顔を見せて

今の時代サングラス+マスクのような分かりやすい不審者は少ないかもしれませんが、それでも顔を隠すのが当たり前前の社会は、**犯罪者を利する恐れ**があります。街の安全を守る警察官、各家庭を訪問するのが仕事である宅配業者や工事業者、営業スタッフの皆さん、防犯の観点からも素顔を出してもらえると安心です。

「知らない人にはついていかない」子供たちに防犯教育をする際の常套句ですが、みんなが必要以上に顔を隠していたら、誰が誰だか区別がつかず近所の人に挨拶をされても分かりません。**顔の見える関係性**こそが、地域社会の安全を守ります。



8. コロナ禍で増えた不登校や自殺、心の健康に目を向けて

小中高生の不登校や自殺が増えているという悲しいニュースがあります。家庭の経済事情なども含めて、様々な要因があることとは思いますが、長過ぎたマスク生活の影響も大きいと私たちは懸念しています。

子供は**心身ともに成長途中**であり、大人に比べて頻繁に、環境が変わって**新しい人間関係を築く機会**があります。進級進学で友人や先生の多くが初対面なとき、みんなが顔を隠していたら、名前を覚えることも難しいでしょう。表情が読めず、友達が馴染めず。私たちは子供たちの**心の健康を、あまりにないがしろにし過ぎているのではないのでしょうか？**



9. 児童、外国人、聴覚障害者、表情を見せてコミュニケーションの配慮を

多様性（ダイバーシティ）の観点からも素顔のコミュニケーションが望まれます。発達期の乳幼児や児童にとって、外国人にとって、さらには聴覚障害者にとっても、顔の見えるコミュニケーションはとても重要です。言葉がうまく通じなくても、**相手の笑顔に安心**できます。マスクがあると表情を読めず、唇の動きで会話を読み取ることもできません。

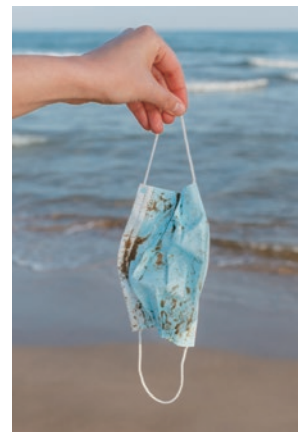
子供たちの前では素顔で話しかけてあげてください。外国人を迎える際は、笑顔こそ「おもてなし」の第一歩。過剰なマスク社会が世界の人たちにどう見えるのか、私たちは懸念しています。



10. 美容や健康、そして環境問題からも、マスク常用の是非を考えて

マスクを着け続けることで口呼吸になり、虫歯や歯周病の原因になるという指摘があります。肌荒れやニキビが増えたり、顎関節症が増えたり、筋肉の動きが小さくなることによる顔の衰えなど、様々な影響も見られるそうです。一時的な着用であればそこまでの心配はなく、**常用が引き起こす弊害**と言えるでしょう。

街中にポイ捨てされたマスクをよく見かけます。不織布マスクは紙ではなく、プラスチック樹脂でできています。自然には簡単に還りません。SDGs が叫ばれる現代において、**自然環境保全という観点からも**マスクの大量消費は見直す必要があるでしょう。



11. 問題の存在に向き合って、国民的な議論のきっかけに

私たちはマスクの一切を否定しているわけではありません。風邪をひいたとき、花粉症の症状があるとき、食品工場や清掃作業中、あるいは病院の手術室など、必要な場面で適切に着用するのは望ましいことです。

残念なのは素顔の見えない問題が、政治やメディアの場でほとんど話題にされないこと。何より私たちはみなさんに、職場や学校や家庭で、**周りの人々と真摯に話し合っ**てほしいと思います。国民的議論のきっかけになることを願います。

